

委員質問・意見等

第 113 回定例会 (11 月 7 日) 受付分

● 情報共有会議 に対する 意見

2月の件、異議ありません。

第 112 回定例会後 (10 月 17 日) 受付分

● 東京電力 に対する 質問

1. 使用済燃料と運転再開の関係

東京電力柏崎刈羽原発の所長記者会見の DATABOX (2012. 10) に 2012 (H24) 年度第 1 四半期の使用済燃料貯蔵体数 (体) がある。

それには、使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数 13,772、使用済燃料貯蔵プール管理容量 16,915、使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量 22,479 とある。

これまで、プール貯蔵容量はリラッキングで容量増を繰り返してきたと認識している。設置許可時のプール容量はそれぞれいくつだったのか号機毎に示されたい。また現在合計 22,479 体とのことだが号機毎に示されたい。

1 炉心分は燃料交換のために空けておくと聞く。1 炉心は 1~5 号は 764 体、6・7 号 872 体と理解する。よって合計 5,564 体は貯蔵用に使えない。よって今後の追加貯蔵可能容量は管理容量 16,915 体と貯蔵体数 13,772 の差である 3,143 体しかない。これは 1 炉心分 5,564 体の半分 (0.56) でしかない。1 サイクル毎の交換燃料は 1/3 ~ 1/4 炉心と聞く。よって、使用済核燃料を移管しない限り、2 サイクルを待たずに満杯となり、運転継続ができなくなると考える。この認識に誤りはあるか。

移管先としての六ヶ所再処理工場の使用済燃料プールはウラン重量で 3,000 トン中 2,920 トン (2012.3 現在) ではほぼ満杯である。むつ市に建設中の中間貯蔵施設も、当初計画との乖離が大きく、確実な見通しが立たない状況であると認識する。この認識に誤りはあるか。

柏崎原発の今後を考えるに、直接的関係というより基本的方向性として注目されることに、核燃料サイクル問題がある。原子力委員会が日本学術会議に委託した高レベル放射性廃棄物処分に関する諮問に対する提言が出され、行き詰まった核燃料サイクル政策の変更が始まったと考える。

原子力発電の運転継続は、核燃料サイクル全体像と当面の使用済燃料の具体的見通しなくして議論できないと考えるが、東電は過日、2013春から柏崎刈羽原発を運転再開する旨の発表をした。

運転再開計画と使用済核燃料の見通しを具体的に示さず一方的に運転再開を発表するのは無責任と考える。使用済燃料と運転計画を説明されたい。

2. プール貯蔵の今後に関して

使用済燃料プールは原子炉最上階に位置し、無防備状態に置かれている。冷却ができなくなると、2011.3.25の近藤駿介作成の「福島第一原子力発電所の不測事態シナリオの素描」の事態に至ると危惧する。

柏崎刈羽原発の使用済燃料の貯蔵量は福島第一原発より多い（福島第一1960Ut、柏崎刈羽2310Ut）。柏崎刈羽原発の不測事態を想定し公表して欲しい。

10.17発表の使用済み燃料の異常が12年前、13年前に使用した燃料であったと聞き、改めて使用済燃料問題の深刻さを認識した。

過日、規制委員会委員長が電力事業者に乾式貯蔵を求めるとコメントしたことが報道された。東電は今後どうするのか。

● 資源エネルギー庁及び規制庁 に対する 質問

核燃料サイクルの全体像を示して下さい。

現状（従前説明）は支離滅裂で行き詰まっていることを説明して下さい。支離滅裂でない・行き詰っていないのなら具体的に説明して下さい。